

# 宮城県総合教育センター所報 第3号

発行日 平成27年2月18日  
発行者 宮城県総合教育センター 所長 阿部 恒幸  
〒981-1217 名取市美田園2丁目1番4号 ☎: 022-784-3541 (代表)

## 「みやぎの子どもたちの未来のために」



副所長(兼研究研修部長) 佐々木 清光

平成25年4月に開所いたしました宮城県総合教育センターは、今年4月には3年目を迎えることとなります。総合教育センターとして出発するに当たり、これまで教職員研修機関の両翼を担ってきた教育研修センター、特別支援教育センターはもとより、栄養教諭、養護教諭、実習助手、寄宿舎指導員等の研修会を主催してきた教育庁スポーツ健康課・教職員課、また、学力向上サポートプログラム事業を主催してきた義務教育課等の教育庁関係課室と何度も協議と調整を重ねました。検討を積みごとに論議が行き詰まることもありましたが、議論を進めるに当たって大きな拠り所となったのが、総合教育センター(仮称)基本構想(平成18年1月策定)で示された「学校現場における主体的な取り組みを支援する」という視点でした。

研修会に参加する教職員の方々に、今日的教育課題である「学力向上」「心の教育」「特別支援教育」等に対応する内容を提供して、小さい種火が大きい炭火となるように学校・教職員を喚起するきっかけ作り、お手伝いをするのが総合教育センターの果たすべき使命であることを再確認した次第です。

また、総合教育センターの開所を機に「土曜講座」の開設や「センター指導主事派遣事業」を実施しています。「土曜講座」においては、ふるさと宮城にゆかりのある講師を招いた「講演会」、「学級だより作成」、「iPad操作」等の講座や研修会の開設、「センター指導主事派遣事業」においては、学校の個別の内容に対応した「LINE等の現状」「特別支援教育の校内体制のあり方」「不登校児童生徒への対応」「児童生徒及び保護者対象のネット被害の現状」等、児童生徒、保護者も参加できる研修として、学校・教職員の方々に支援してまいりました。

東日本大震災から5年目となる平成27年度は、宮城県震災復興計画における再生期の2年目に当たりますが、児童生徒並びに私たち教職員を取り巻く環境はまだまだ厳しい状況にあります。

宮城県総合教育センターは、子どもたちを支えている学校・教職員の方々に支援するために、そして、21世紀をたくましく生き抜く「みやぎの子どもたちの未来」のために、「つなぐ、ささえる、リードする」を合い言葉に、センター職員一丸となって取り組んでまいります。



## りんくるみやぎ

～ 不登校・発達支援相談室 ～



教育支援部では、旧教育研修センターの不登校相談センターと旧特別支援教育センターでの教育相談事業を統合して、「不登校・発達支援相談室」として以下のように運営しております。

### (1) 電話相談(月～金 9:00～16:00)

- 不登校相談ダイヤル 022-784-3567 … 不登校で悩んでいる本人、保護者、関係者
- 教育相談ダイヤル 022-784-3568 … 教育全般で悩んでいる本人、保護者、関係者
- 子どもの相談ダイヤル 022-784-3569 … いじめ、家庭問題、友人関係などで悩んでいる本人、保護者、関係者
- 24時間いじめ相談ダイヤル 0570-0-78310 … 年中24時間対応
- 特別支援教育相談ダイヤル 022-784-3565 … 障害及び発達の遅れや偏りがあると思われる幼児・児童・生徒、保護者、関係者

### (2) 来所相談

- 不登校相談(要予約) 022-784-3567 … 臨床心理士等による本人・保護者面談・相談
- 特別支援教育相談(要予約) 022-784-3563 … 本人・保護者、関係者との面談、相談

### (3) 定期巡回相談(特別支援教育、不登校 要予約) … 開催日時、会場は総合教育センターWebサイトの「教育相談」のページをご確認ください。



平成26年4月から、不登校・発達支援相談室は「りんくるみやぎ」という愛称を用いております。ぜひお気軽にお問い合わせ、ご相談ください。

# 平成26年度長期研修 専門研究員グループ研究

## <授業改善・学力向上研究グループ>

児童生徒の学力向上を目指す授業改善

－ 算数・数学科における「活用する力」を高める指導の在り方の提言を通して －

本研究は、全国学力・学習状況調査で本県の課題にもなっている算数・数学科において、「活用する力」を高めることを通して、児童生徒の学力向上を目指しています。「活用する力」を高める手立てとして、日常生活や他教科等の学習との関連を図った授業での「活用する力」を高める授業構想図、「活用する力」を高める授業アイデア例を作成しました。これらの活用を図った授業改善を提案します。

## <理科教育研究グループ>

生徒が観察・実験に目的意識をもって取り組む理科授業

－ 観察・実験の技能を習得させる場面を組み入れた学習の展開を通して －

中学校理科において、観察・実験の目的意識をもたせる学習活動に、観察・実験の技能を習得させる場面を組み入れて学習を展開させる授業の在り方を、実態調査と授業実践を通して探り、研究の成果を「観察・実験事例集」としてまとめました。

## <教育相談・生徒指導研究グループ>

よりよい人間関係を主体的に築く児童生徒の育成

－ 「絆づくり」プログラムの開発と活用の提案を通して －

本県が抱える生徒指導上の諸問題の一因として、児童生徒が人間関係を築くことに対して課題を抱えていることが挙げられます。児童生徒の人間関係を築く力を高めるには、児童生徒と学級の実態に応じた長期的・継続的な指導が必要です。本研究は、よりよい人間関係を主体的に築く児童生徒を育成するために、小・中・高等学校の学級活動・ホームルーム活動に日常の朝・帰りの会の活動を関連させた指導プログラムとして、「絆づくり」プログラムを開発し、その活用を提案します。

## <情報教育研究グループ>

学びの可能性を広げるICT活用の推進

－ タブレット端末機の活用を中心とした実践ポイント集の作成を通して －

教育の情報化が進む中、利便性の高いタブレット端末は急速に学校現場へ導入されつつあります。このタブレット端末を、すべての教員が学習のねらいに応じて活用できるよう、基本的な機能を中心とした授業での活用例を提示する実践ポイント集を作成しました。基本的な操作方法や他のICT機器との接続方法なども内容に盛り込んでいます。本研究は、この実践ポイント集をWeb上で発信し、タブレット端末をはじめとするICT活用の推進を提言することで、学びの可能性を広げることを目指すものです。

## <防災教育研究グループ>

災害時に助け合い、協力して地域社会に貢献できる児童生徒の育成

－ 「防災教育ハートフルパック」の開発と活用の提言を通して －

東日本大震災を経験した宮城県では、学校における安全教育を通して、災害発生時に自らの命を守る力とともに、地域社会の安全や安心のために活動できる心と力を身につけていくことが求められています。本研究は、災害時に助け合い、協力して地域社会に貢献できる児童生徒の育成を目指すために「共助」「公助」の心と力を身につけるための学習教材集「防災教育ハートフルパック」を開発し、その活用を提言するものです。

## <特別支援教育研究グループ>

小・中学校における児童生徒への障害理解を推進するための指導の在り方

－ 学習ニーズに応じた指導プランの提案を通して －

国が共生社会の形成を目指す中、宮城県では「共に学ぶ教育」の推進を図り、特別支援学校及び小・中学校等において障害のある児童生徒とない児童生徒を対象とし、交流及び共同学習、各教科等を通じて、障害理解教育を実践してきました。本研究は、これまでの実践を継承しつつ、更に小・中学校における児童生徒への障害理解を推進するために、文献研究及び調査研究から現状と課題を明らかにし、学習ニーズに応じた指導プランの提案を試みることで効果的な指導の在り方を探るものです。

専門研究員によるグループ研究や長期研修員の研究内容については、総合教育センターWebサイトでダイジェスト版を公開中ですので、ぜひ御覧ください。研究の詳細は3月13日（金）に掲載予定です。各学校での効果的な活用を願っております。

